

令和5(2023)年9月27日

道中理

第186号

北海道中学校理科教育研究会



新研究主題～キーワードは「学びの再構築」

北海道中学校理科教育研究会 会長 小林直人

道中理会員の皆様におかれましては、日頃より本会の活動に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。本年度も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、「2030年の社会と子供たちの未来」が中央教育審議会（平成28年）で話題になってから、7年が経過しました。社会の変化は加速度を増して複雑かつ予測困難になってきており、子どもたちはこれから、社会の変化に対して、受け身ではなく主体的に様々な問題を見つけて解決に取り組んでいかなければなりません。そのために必要な資質・能力を育てるにはどうすればよいか…このような議論の中で学習指導要領改訂が行われました。私が報告書に目を通した時はぜひいぶん先の話と思っておりましたが、月日が流れるのは早く、あと7年で、その「2030年」を迎えることとなります。

今、教育現場では「主体的・対話的で深い学び」「GIGAスクール構想」「個別最適な学びと協働的な学び」「観点別学習状況の評価」など、様々な「キーワード」が飛び交っていますが、最も大切なのは「資質・能力の育成」です。この「資質・能力の育成」のために様々な「キーワード」があることを常に念頭に置いておかないとぶれる可能性があります。理科で育成を目指す資質・能力について、ポイントとなるのは、生徒が自然現象の中に問題を見いだして課題を設定し、見通しをもって科学的思考を働かせながら探究し続ける力と捉えることができ、今まで道中理が永年、大切にしてきたことと変わりはないと考えています。諸先輩方の本質を見極める力に、心より敬意を表します。

今年度の道中理の活動に目を向けますと、新た

な研究主題「学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育」の下で研究を進めていく、ということが最も注目すべき点となります。今後4年計画で、「知識の再構築」と「学びのプロセスの再構築」を「学びの再構築」として、研究を進めていきます。考え方や価値観の異なる様々な先生方が、同じ視点や目的で議論し研究を進めていくうえで、研究主題に関する理解はとても大切です。研究部が長い時間をかけてまとめてくれた原案を冬季研修会等で議論し、修正を加えながら、様々な機会を通して会員皆様の理解を深めてきました。今後の研究を推進する上での新たな指標として、大切にしていきたいと考えております。

新しい研究主題として初めての全道大会「第61回北海道中学校理科教育研究会・旭川大会」を10月20日(金)に開催いたします。旭川の上原運営委員長・小嶋事務局長をはじめ、旭川の先生方が何年も前から時間をかけて準備してくださいました。コロナの影響で数年間実施できなかった「生の授業」を通して、多くのことを共に学ぶ大会となりますので、たくさんの会員の皆様にお集まりいただければ幸いです。

また、再来年の令和7年には、「第72回全国中学校理科教育研究会・北海道大会」が札幌で開催予定となっており、今年度から本格的な準備がスタートします。コロナの影響でお互い「顔の見える交流」ができなかったブランクを乗り越え、北海道の理科教師がチームとして結集し、全国の先生方を温かく迎えることができるよう、御協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

(札幌市立栄南中学校長)

学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育

～自ら問い続け、主体的・対話的で深い学びをデザインし、科学的に探究する力を育てる理科学習～

旭川市教育研究会理科部中学校部会 研究部長 鎌田 康裕（旭川市立神楽中学校）

I 研究副主題設定の理由

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍するころには、厳しい挑戦の時代を迎えることが予想されます。そのため、これからの学校には、従来通りの一斉型（単線型）の授業により、与えられた課題を正確に解くことを重視するだけではなく、様々な問題に主体的に向き合う中で自ら課題を発見し、他者と協働しながら解決していくことや、様々な情報の中から課題解決に必要な情報を見極め、知識の概念的な理解に基づき新たに情報の再構成を図るなど新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することなどが求められています。

北海道中学校理科教育研究会（以下、道中理）では、今年度より研究主題を「学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育」と設定し、新しい研究が始まりました。旭川市教育研究会理科部中学校部会（以下、旭教研理科部）においても、人間が自然の一部であることを認識し、一方的に自然から何かを得るのではなく、互いの存在を大切にしながら働きかけ、永続的に存在できるよう「自然との共生に向かう」ことが、理科を学ぶ上で重要な要素であるとおさえています。そのような持続可能な社会を構築するためには、自然と人間とのよりよい在り方を考え、自分が自然に対してどのような働きかけをすることができるのか、自問自答し続け、新たな価値を生み出すことが必要であると考えます。自然の事物・現象を多面的・総合的に捉え、過去や他の領域との学び、他教科との学びをつなぎ、社会や自然、日常生活において活用できる「知識の概念的な理解」へと広げていくためには、本研究がめざす「科学的に探究する力」の育成が大きく関連しているものと考えます。

このようなことから、今日的な課題や時代の要請、道中理研究主題やこれまでの研究の経過を踏まえ、本研究副主題を「自ら問い続け、主体的・対話的で深い学びをデザインし、科学的に探究する力を育てる理科学習」と設定し、授業実践を通じた研究を推進しています。

II 研究副主題について

【自ら問い続ける】

探究の過程全体において、生徒が理科の見方・考え方を働かせながら、個々の問いを見通しをもって主体的に探究する学習を進める中で、問いを自分自身で考えたり、他者との協働によって解決したりする姿を「自ら問い続ける」ことと捉えています。

【主体的・対話的で深い学びをデザインする】

「主体的・対話的で深い学び」とは、単元全体を通して生徒一人一人がもつ個々の問いを解決するために理科の見方・考え方を働かせながら観察、実験を行い、その結果や他者との関わりを通して、自らの考えを更新し、確かなものにしようとする姿とおさえています。また、「デザインする」とは、教師側と生徒側による2つの視点で授業改善を図ることを表しています。

「教師側からの視点」とは、教師が授業を構想する段階において、生徒に働かせる理科の見方・考え方を明確にし、先の見通しをもたせることで主体的な学習を促す指導計画を作成・実施・改善していくことです。

「生徒側からの視点」とは、生徒が課題解決に向けて、これまで身に付けた理科の見方・考え方を積極的に働かせながら、先の見通しをもって、探究の過程全体に主体的・協働的に取り組むことです。

Ⅲ 研究の仮説

生徒が理科の見方・考え方を意識的に働かせながら、見通しをもって主体的に探究する中で、問いを自分自身で考えたり、他者との協働によって解決したりする姿を教師がデザインすることで、科学的に探究する力を育むことができる。

Ⅳ 研究の内容と方法

【研究内容1】

理科の見方・考え方を働かせ、自ら問い続けることで、科学的に探究する力を育むための学びの構想（指導計画）

【研究内容2】

主体的・対話的で深い学びの視点を生かし、科学的に探究する力を育むための学びの活動（学習活動）

【研究内容3】

科学的に探究するための資質・能力を育む学びの評価（学習評価）

第61回北海道中学校理科教育研究会旭川大会 大会主題

「学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育」

大会副主題

「自ら問い続け、主体的・対話的で深い学びをデザインし、科学的に探究する力を育てる理科学習」

- 1 主催 北海道中学校理科教育研究会
旭川市教育研究会理科部
- 2 後援 北海道教育委員会
旭川市教育委員会
北海道中学校長会
上川管内校長会
旭川市小学校長会
旭川市中学校長会
上川管内教育研究会
旭川市教育研究会
北海道エネルギー環境教育研究委員会
- 3 期日・日程 令和5年10月20日(金)
9:00 研究授業
10:30 開会式
11:10 分科会
13:30 全体会・各地区発表

15:10 講演会

16:40 閉会式

4 会場

旭川市立永山南中学校（第1分科会）
旭川市立北門中学校（第2分科会）
旭川市立愛宕中学校（第3分科会）
旭川市大雪クリスタルホール（全体会会場）

5 分科会及び授業者

【第1分科会】「身のまわりの現象」
加納 宏康 教諭（旭川市立永山南中学校）
【第2分科会】「天気とその変化」
荒木 健地 教諭（旭川市立北門中学校）
【第3分科会】「地球と宇宙」
新井 崇仁 教諭（旭川市立愛宕中学校）

6 全体会（各地区研究発表）

【札幌地区】
室永 瑞貴 教諭（札幌市立東白石中学校）
【釧路地区】
三光桜 正洋 教諭
（北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程）
【函館地区】
中村 英彦 教諭（函館市立亀田中学校）

7 講演

講師 正和電工株式会社
代表取締役 橘井 敏弘 氏
演題 『「SDGs 6」安全な水とトイレを世界中に～微生物の力を借りた挑戦～』

開・閉会式・分科会・講演会会場

旭川市大雪クリスタルホール

〒070-8003 旭川市神楽3条7丁目
TEL 0166-69-2000

旭川市大雪クリスタルホールは、市民の教育、学術、芸術及び文化の発展を図り、21世紀に向けて魅力ある豊かな地域社会を創造する拠点として平成5年9月に開館しました。

郷土の自然と先人の歴史を伝える博物館、木のぬくもりの中に優れた響きを誇る音楽堂、国際コンベンションに対応した設備をもつ国際会議場の3施設によって構成されている複合施設です。

また、併設されている旭川市博物館は平成20年に生まれ変わり、「アイヌの歴史と文化に出会う」をコンセプトに、「先住の民アイヌの歴史と文化」「厳冬を生きぬく動植物と人」をテーマとした資料を豊富に展示しています。

授業校紹介

旭川市立永山南中学校

生徒数 503名 20学級
旭川市永山町5丁目118番地
TEL 0166-48-8117

昭和57年に永山中学校から分離し独立した学校です。教育目標「開拓～未来を開く逞しさを～」のもと、教職員、保護者、地域と連携し、教育活動に取り組んでいます。広々としたグラウンド、校舎まわりの田園風景、教室の窓から見える大雪山連峰という恵まれた教育環境の中、体育・文化両面での部活動で成果を上げ、数多くの部が全国大会に出場している、活気あふれる学校です。

授業校紹介

旭川市立北門中学校

生徒数 415名 20学級
旭川市錦町15丁目
TEL 0166-51-1431

昭和35年に開校し、校訓「誇りと責任」のもと、日常の教育実践では「気づき、考え、実践意欲のある生徒の育成」を目指しています。地域の特色を生かし、アイヌの人々との関わりを「郷土資料館」「知里幸恵資料室」として校内に整備し、広く活用できるよう努めています。毎年6月に行われる知念幸恵生誕祭では、アイヌの人々の歴史や文化などを学ぶ良い機会となっています。

授業校紹介

旭川市立愛宕中学校

生徒数 419名 17学級
旭川市豊岡8条10丁目
TEL 0166-34-9090

昭和63年に開校し、校訓「やる気 根気 本気」のもと、愛情に満ちた教育の推進を願い、「未来を拓く、創造性豊かな生徒」の育成を目指しています。コミュニケーション能力の育成を目的とした「あいさつ運動」や「全校道徳」、よりよい生活習慣の育成を目的とした「アウトメディア集会」等の生徒会活動を通して、生徒は自らの生活の向上に主体的に取り組んでいます。

第1分科会 第1学年

「身のまわりの現象」 ～光の世界～

授業者

旭川市立永山南中学校 加納 宏康 教諭

1 研究の視点

第1分科会では、「理科の見方・考え方を働かせながら、問題を見いだす力を高め、主体的に学び続ける生徒の育成」のテーマのもと、理科の見方・考え方を効果的に活用する場面設定や工夫、自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだすことに視点を当てて実践を重ね、研究を進めています。

Ⅱ ユニットの指導計画「光の世界」

ユニット	光の世界	14時間
・オリエンテーション	本時(2/2時間)	
・物の見え方		(1時間)
・光の反射・屈折		(4時間)
・レンズのはたらき		(3時間)
・身のまわりの現象と光の道筋		(3時間)
・ユニットのまとめ		(1時間)

Ⅲ 本時の学習について

本時は、光の世界に関する自然の事物・現象に触れる中から問題を見いだす学習活動になります。前時には、屈折によって浮き上がって見えるコインや凸レンズによって大きく見える物体、潜望鏡によるものの見え方、蜃気楼など不思議なものの見え方をいくつか体験し、光の道筋とものの見え方に関連があることについておさえます。また、ユニットを貫く学習課題を「身のまわりの光に関わる現象を説明できるようになろう」と設定し、ユニットの学習のゴールを生徒と共有します。

本時は、真水と濃い砂糖水が2層になっている液体が入った水槽の様々な場所から光線をあて、その実験結果から生じる疑問をもとに理科の見方・考え方を働かせながら思考を深めます。さらに、解決の糸口となる学習課題を、生徒自らが主体的に見いだしていくことがねらいです。

当日は多くの先生方に御覧いただき、御指導、御助言をいただければ幸いです。

第2分科会 第2学年

「気象とその変化」 ～雲のでき方～

授業者

旭川市立北門中学校 荒木 健地 教諭

I 研究の視点

第2分科会では、「課題を探究する場面において、他者との協働により自ら問いを深め、検証計画の質を高める授業の工夫」を研究テーマとして、「仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する力」と「観察・実験の計画を評価・選択・決定する力」の育成に重点を置いて取り組んできました。仮説設定や検証計画の立案場面で活用する「検証計画シート」を作成し、実験方法や手順について、第2学年の学習を通して繰り返し振り返ったり改善策を考えたりして検証計画の質を高めていくことで、科学的に探究する力を育てることができると考えています。以上の視点で、研究を進めています。

II 指導計画「気象とその変化」

ユニット① 雲のでき方	13時間
・オリエンテーション	(1時間)
・気象観測	(2時間)
・気圧と風	(3時間)
・雲の発生	本時(2/3時間)
・水蒸気の変化と湿度	(2時間)
・気団と前線	(2時間)
ユニット② 大気の動きと日本の天気	10時間
・大気の動きと天気の変化	(1時間)
・日本の天気の特徴	(3時間)
・天気の変化の予測	(3時間)
・気象現象がもたらすめぐみと災害	(3時間)

III 本時の学習について

本学習では、雲をつくる実験を計画することを通して、雲が発生する条件を見いだしていくことをねらいとしています。これまでの探究場面における振り返りを活用することや、班を超えた交流で条件制御の必要性などを共有することで、仮説を検証するための計画を立案することができると考えました。当日は、多くの先生方に御覧いただき、御指導、御助言をいただければ幸いです。

第3分科会 第3学年

「天体の動きと地球の自転・公転」 ～年周運動と公転～

授業者

旭川市立愛宕中学校 新井 崇仁 教諭

1 研究の視点

第3分科会では、「見通しと振り返りを通して、自らの問いと学びをつなぎ、理科の見方・考え方を働かせて探究する生徒の育成」を研究のテーマとして、①ストーリー性のあるユニット構成の工夫、②見通しと振り返りを促す複線型の授業の工夫、③理科の見方・考え方を働かせる学習材の工夫、④1枚ポートフォリオによる形成的評価の工夫について、4つの視点で研究を進めています。

II 指導計画「地球と宇宙」

ユニット① プロローグ	4.5時間
・星空をながめよう	(0.5時間)
・3D星図、天体の不思議発見	(2時間)
・恒星と月、太陽の様子	(2時間)
ユニット② 日周運動と自転	4時間
・太陽と星の1日の動き	(3時間)
・地球の自転と方位、時刻	(1時間)
ユニット③ 年周運動と公転	9時間
・地球の運動と季節の変化 本時(5/9時間)	
ユニット④ 月や金星の運動と見え方	4時間
・月の満ち欠け、日食と月食	(3時間)
・金星の見え方	(1時間)
ユニット⑤ 宇宙の広がり	2時間
・太陽系の天体と宇宙の広がり	(2時間)

III 本時の学習について

本時では、季節が生じる理由について、複線型の授業を行います。観測記録や日常の経験をもとに、季節の星座、太陽の南中高度や日照時間といった季節ごとに変化する要素について、時間的・空間的な視点や、多面的・総合的な視点から地球の運動と関連付け、地球の公転や地軸の傾きについて天体モデルで再現することを通して、季節が生じる理由について迫ります。当日は多くの先生方に御覧いただき、御指導、御助言をいただければ幸いです。

◆ 令和5年度 北海道中学校理科教育研究会 夏季研修会要旨

7月29日（土）ホテルライフオーブ札幌

7月29日(土)に、ホテルライフオーブにて道中理夏季研修会が行われました。オンラインでの参加もありましたが、多くの先生が集まり、大変実りの多い研修会とすることができました。

《夏季研修会の内容》

1 研究主題について

今年度からの研究主題「学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育」の主題解説を行いました。昨年度の冬季研修会で会員の皆様からいただいた意見を取り入れたものを解説させていただきました。研究仮説「学びのプロセスを再構築しながら科学的に探究し、知識の再構築を積み重ねていくことによって、自然との共生へと向かうことができる生徒を育てることができる」もとに教育課程、学習活動、観察・実験、学習評価の観点から研究を進めていきたいと考えています。

2 第61回道中理旭川大会について

令和5年10月20日(金)に旭川大雪クリスタルホール、および旭川市立永山南中学校、旭川市立北門中学校、旭川市立愛宕中学校を会場として行われる。今回は4年ぶりの参集で3つの授業を公開しての開催となります。内容は旭川大会の概要を御覧ください。



3 第70回全中理東京大会 発表概要

観察・実験

『学びの過程』を通して、資質・能力を系統的に育む理科学習」

菊地 友佳子 教諭(北斗市立茂辺地小中学校)

本研究では、理科への興味関心を高め、より深い学習を目指すために、操作性が高く、生徒一人一人が触れながら、自らの気づきや問いを生み出すことができる教材・教具の工夫を目的とした。

メラミンスポンジなど、身近なものを用いて、地震波の振動を視覚化して認識する装置や気圧を視覚的に捉え、気圧の温度変化の関係に生徒が自ら気付くことができる実験装置など、生徒が手に触れて、繰り返し操作しながら自然事象と向き合うことができる実践を行った。

成果として、生徒が自分の考えをもって実験を行うことで、自然事象に対する興味関心が高まり、主体的に学ぶ姿が見られた。



環境教育

「知識の再構築を通して、自然との共生に向かう環境教育」

瀬田 悠平 教諭(札幌市立八軒東中学校)

本研究では、「知識の再構築」に重点をおき、既習事項を活用して、現在日本が抱える環境などの諸問題に対して生徒が自分の考えをもつことをねらいとした。そのために、各単元や年間の学習

の終末に身近な問題を課題として、多面的に考えることができるような課題設定を行なった。また、生徒自身が自分の困り感を認識することが次の課題設定や課題解決の原動力となるよう、ワークシートに他者からの意見や改善案を記入する欄を設け、自分では気付かなかった新たな視点などに気付き、多面的に事象を捉え、自身の考えを更新していくことができるような工夫を行った。

成果として、学んだことを活かしていくような題材を設定し、他者と関わりながら探究していくことで「知識を再構築」し、身近な問題を多面的・総合的に捉え、自分なりの考えをもつことができるようになった。



4 実践発表

(1)「生徒主体の授業を目指した授業改善」

俣田 優 教諭（釧路市立北中学校）



本実践は、生徒主体の学びを進める授業を行うために、課題解決の姿に正対した課題設定や生徒の思考に寄り添い、日常生活とのつながりを意識した授業構築をねらいとした。そのために、釧路地区のユース世代の先生方で日常的にSNSを活

用し板書内容を交流し授業改善を図ったり、SNSで専門家に直接質問し、専門性や日常生活との関わりを明らかにしたりして授業に臨むことで、生徒が主体的に学ぶことができる授業改善を行った。

(2)「ポートフォリオを活用した単元の見通しと振り返り」

小出 拓哉 教諭（旭川市立東明中学校）



本実践は、学習内容や時間のまとまりの中で生徒が見通しをもち、資質・能力を育むために主体的・対話的で深い学びの実現を図ることをねらいとした。そのために、単元計画と目標、自己変容を捉えることができる振り返りのポートフォリオ、ノートなどの授業の内容、資料集などの情報を生徒自身で整理する「凝縮ポートフォリオ」を用いた実践と、全中理三重大会で東京都中学校理科研究会の「二次元ルーブリック」の考え方を参考とした主体的に学習に取り組む態度の評価についての実践を行った。その結果、生徒自身が単元の見通しをもち、自身の学びを振り返ることができた。



(3)「IB教育におけるルーブリック」

西野 竜馬 教諭（市立札幌開成中等教育学校）



市立開成中等教育学校で実践しているIB教育とそれに伴うルーブリックと評価例について紹介した。その中でも道中理の研究や指導要領との関わりの深いIB教育で求める「10の学習者」の姿と、Approaches to learningスキル、さらにその評価の在り方を例に、具体的な生徒の成果物を用いて総括的な評価を行う過程や評価基準を例示した。

主体的に学習に取り組む態度の適切な評価の在り方や定期テストの在り方が検討されている中で、明確なルーブリックを提示し、生徒・保護者と共通理解を図り実践を進めているIB教育から学ぶべきところが多かった。

(4)「ユースネット活動報告」

長谷川彬人 教諭（札幌市立厚別南中学校）

今井 大貴 教諭（札幌市立藻岩中学校）

芦田 創平 教諭（札幌市立北白石中学校）

後藤 崇仁 教諭（札幌市立厚別南中学校）



ユースネットでは昨年度の夏季特別研修会でつくった授業検討チームの実践研究について主に報

告があった。

1学年チームでは、音の大小と高低を題材に、生徒が楽しみながら、かつ実感を伴った授業展開を目指して、輪ゴムギターを使って工夫しながら音の大小や高低の違いを再現していった。生徒が自ら方法を模索し、五感を使って体験的に学ぶ姿が見られた。

2学年チームでは、ワイヤレス充電器を教材に、既習事項を活用して仮説を立て、交流を通して生徒が自分たちで考えを練り上げていく姿を目指した。班ごとに仮説を立て、検証実験を立案することに重点を置き、実際にワイヤレス充電器の分解を行うなど授業展開を工夫することで、これまでの学びを関係付けながら課題解決を図る姿が見られた。

3学年チームでは、熱伝導率を題材に生徒が探究したいと思うことができる授業の構築を目指した。本実践では、エネルギー変換の実験から発熱量と上昇温度に差があることから、熱の伝わり方や物質の熱伝導率の違いへと生徒が自ら興味関心をもち、次の探究の課題を見いだしていく姿が見られた。



5 助言

札幌市教育委員会 寺田 晋哉 指導主事、北海道教育大学 柚木 朋也 特任教授から次のような御助言をいただきました。

- 研究主題、研究発表、実践発表ともに、生徒の思考に寄り添い、生徒が中心となったものであり、今後も更に研究を進めてほしい。
- 全中理東京大会に向けての発表では、主体的に学ぶには、感性を育むことも大切であり、生徒が進んで自然事象に触れたり、身近な問題に関わったりすることは有益である。また、3年間の継続した実践が生徒に大きな力を育むことにつながる大変よい発表であった。
- 実践発表では若い先生の発表が多く、SNSなども活用し、各地域で工夫しながら、よりよい授業づくりや適切な評価の在り方について研鑽を重ねており、道中理全体により刺激を与える発表となっていた。



令和5年度「道中理」常任理事会・理事会・事務局総会報告

5月13日、令和5年度の道中理常任理事会・理事会・事務局総会が、ホテルライフオーソ札幌で開催されました。会では令和5年度の事業計画・各部活動計画・予算案について審議され、原案通り承認され、役員を選出、理事・事務局員の委嘱が行われ、今年10月の旭川大会の運営についても確認されました。

令和5年度 役員、理事、事務局員

会 長	小林 直人(札幌市立栄南中学校校長)	新	会計監査	豊村 和史(札幌市立星置中学校校長)	新
副 会 長	上原 大岳(旭川市立東光中学校校長)	再	事務局長	三浦 雅美(札幌市立平岡中央中学校教頭)	新
副 会 長	橋本 智也(函館市立銭亀沢中学校校長)	再	次 長	細川 直久(札幌市立宮の丘中学校教頭)	新
副 会 長	河原 和範(釧路市立桜が丘中学校校長)	新	次 長	野田 隆之(札幌市立北都中学校教頭)	新
副 会 長	林 康弘(札幌市立東月寒中学校校長)	新	次 長	小路 美和(札幌市立新川中学校教頭)	新
副 会 長	熊谷 誠二(札幌市立西野中学校校長)	再	庶務部長	林 義人(札幌市立新琴似北中学校教諭)	再
副 会 長	三浦 英悟(札幌市立琴似中学校校長)	新	会計部長	長沼 文博(札幌市立陵北中学校教諭)	再
旭川地区事務局長	小嶋 栄次(旭川市立中央中学校常任理事)	再	組織部長	中村 英之(札幌市立啓明中学校主幹教諭)	再
函館地区事務局長	鳴海 清英(函館市立南茅部中学校常任理事)	新	編集部長	田口 佑弥(札幌市立向陵中学校教諭)	再
釧路地区事務局長	岩谷 拓実(釧路町立富原中学校常任理事)	再	研究部長	伊藤 雄一(札幌市立美香保中学校主幹教諭)	新
会計監査	阿部広一郎(札幌市立平岡中央中学校校長)	新	顧問	101名	常任理事 10名 理事 39名

● 5月13日(土)、道中理常任理事会、総会がホテルライフォート札幌を会場に、Webを加えたハイブリッドで行われました。令和4年度の事業報告並びに会計決算報告と併せて、令和5年度の事業計画、予算案、役員・常任理事・理事等が承認され今年度の活動が始まりました。今年度は、新たに会長に、札幌市立栄南中学校の小林 直人校長が就任しました。また、事務局長は三浦 雅美教頭（札幌市立平岡中央中学校）、事務局次長は細川 直久教頭（札幌市立宮の丘中学校）、野田 隆之教頭（札幌市立北都中学校）、小路 美和教頭（札幌市立新川中学校）となりました。各地区の事務局長は、旭川地区は小嶋 栄次教頭（旭川市立中央中学校）、函館地区は鳴海 清英教頭（函館市立南茅部中学校）、釧路地区は岩谷 拓実教頭（釧路町立富原中学校）が担当します。

● 7月29日(土)にホテルライフォート札幌を会場にハイブリッドで夏季研修会を開催しました。研修

会では、今年度からスタートする新研究主題の解説に続き、第61回道中理旭川大会概要等と研究授業について説明がありました。

続いて、全中理東京大会での函館地区、札幌地区の発表内容の紹介がありました。休憩後は、実践発表として、釧路地区、旭川地区、開成中等教育学校からの実践発表と、ユースネットの紹介と昨年度の活動報告がありました。実践発表では、理科授業評価での「主体的に学習に取り組む態度」に関する実践例が紹介され、若手を含めて多くの意見交流がありました。

また、この研修会に先立って、全道研究部長会を開催し、研究の共有を行いました。

●10月20日(金)に、第61回道中理旭川大会が午前中に旭川市立永山南、北門、愛宕の各中学校での授業公開、午後は旭川市大雪クリスタルホールを会場に全体会では釧路、函館、札幌地区からの実践発表、講演があります。

令和5(2023)年9月27日 道中理 186号
編集発行 北海道中学校理科教育研究会
会 長 小林 直人（札幌市立栄南中学校長）

事務局所在 〒004-0875
札幌市清田区平岡5条4丁目7-1
札幌市立平岡中央中学校内
事務局長 三浦 雅美（教頭）
TEL 011-881-6666 FAX 011-881-0723
<http://www.dochuri.org/>

本誌記事内容・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。